紙ふうせん

KAMIFUSEN　NO.41

成田市立図書館だより　第41号　1999年（平成11年）1月20日発行

編集　成田市立図書館　〒286-0017 成田市赤坂1-1-3　☎ 0476-27-4646
FAX 0476-27-4641

☆1998年図書館講座

祝　成田市教育委員会文化功労彰

木下慶子先生・朗読ボランティア「コスモスの会」

長年にわたる朗読指導と朗読サービス活動がたたえられました。

199
図書館

文学講座
『21 世紀に向けて 今何をするべきか』
マークス・寿子氏

日英間を行き来する生活を送るマークス氏は、久しぶりに見た日本の光景に危機感を抱き、その原因を探し続けてきました。そして、長く暮らしてきたイギリスと日本の文化を比較し、私たちが学ぶべき多くの点を指摘します。

「日本人は勤勉に働き、経済的にも急成長を遂げてきた。しかしながらその反面、人々のモラルは低下し、理性の役割があまりにも軽視されたため、かなりの誤解を生じている面が出てきてしまっている。日本ではお金だけがすべての価値基準となり、自尊心や逞しい精神力は姿を消してしまった。

さらに、ここ数年の経済的不況がそんな人々の自信を喪失させ、背任や横領といった虚偽を平気で行う世の中になってしまった。集団主義というなれあいの社会の中で人々は、生き方に倫理をなくし、安易な方向に流されてしまっている。

これからの時代、自己の信念を持ち、それを主張できる人間を育てていかなければ、日本はますます破滅的な方向に向かっていってしまうだろう。一人ひとりが強く、集団としても皆と協力しあっていけるような、そんな人間を育てていくことが最も重要である。今の世代が、次の世代をどう教育していくかが、日本の将来に大きく影響を与えることになる。

私たちは、次の世代に何を残すべきか、21 世紀にどういう社会をつくりたいのかをはっきりと見定め、それをしっかりと伝えていくべきである」

古き良き日本が大好きだというマークス氏、明日の日本を憂慮しながら、人間個人の生き方をテーマに、これからも自らの考えを伝えてゆきたいとのことでした。

図書館講座 5 年間（文学編）

'97	「イギリスの風景と歴史」	林　望氏
'96	「一歩外の世界へ～出かけようアジア～」	岸本　葉子氏
'95	「翻訳よもやまばなし」	相原真理子氏
'94	「こころの風景」（開館十周年記念講演）	五木　寛之氏
'93	「小説三国志」	和泉　新氏

98年
館講座

市史講座
『房総の牧について』
大谷　貞夫氏

房総半島は古代より馬との関わりが深く、長い歴史を辿ることができます。

平安時代に編纂された『延喜式』にはすでに、上総・下総に馬牧が置かれていたことが記載されています。中世から戦国時代にかけても、千葉氏が印旛香取地方に、高城氏が葛飾地方に、里見氏が長挟・朝夷地方に、それぞれ牧を設けていました。

各時代にわたり、馬は物資の輸送や移動手段として、重要な役割を担っていたのです。

このような歴史的背景を踏まえて、徳川幕府は、伝統的な牧の好適地である房総に佐倉牧（内野・高野・柳沢・矢作・小間子・取香・油田の七牧）、小金牧（上野・高田台・中野・下野・印西の五牧）、嶺岡牧（東上・東下・西一・西二・柱木の五牧）をおき、直轄経営しました。

牧の改革は、享保時代（徳川吉宗の時代）と寛政時代（松平定信の時代）にそれぞれ、前者は代官・小宮山杢之進によって、後者は小納戸頭取・岩本石見守によって実施され、牧場経営の強化が図られています。

明治時代になると、下総の牧は廃止され、その跡地は開墾地（初富～十余三）となりました。そのため、牧とともに生活してきた農民たちの汗で築かれた土手や捕込跡は、今ではほとんど見ることができません。

講演は各牧の概要紹介から始まり、牧場の管理体制の変革や、年一度の牧場行事である「野馬捕り」の話など、地図を参照したり、市内や周辺地域に残る古文書の解説を交えたりしながら行われました。

今回は、富里町久能の藤崎牧士資料館より貴重な資料をお借りし、大谷先生にその展示解説を行っていただくことができ、講演会は盛況のうちに終了しました。

図書館講座５年間（市史編）

'97	「ムササビが翔ぶ　動物埴輪の世界」	大塚　初重氏
'96	「佐倉惣五郎伝承の成立と展開」	横山十四男氏
'95	「騎馬民族は、古代日本を征服したか」	大塚　初重氏
'94	「大原幽学の門人男女」	木村　　礎氏
'93	「古代の印旛郡」	岡田　茂弘氏

児童講座

『金属はもえる？～線香花火をつくろう～』

坂　口　美佳子 氏

例年、秋に一般向けに行う児童講座ですが、今年の児童講座は小学生を対象に、科学あそび「金属はもえる？～線香花火をつくろう～」を7月25日（土）に行いました。

いままでどんなものを燃やしたことがありますか？金属は燃えるでしょうか？身近な疑問からはじまり、金属がどのように燃えるのかを、子どもたちにプリントを1枚ずつ配り、まず、仮説をたててから、実験によって確かめました。

最後に、実験で使った鉄粉とスチールウールで線香花火を作りました。その場で燃やしてみた子も、おみやげにもって帰った子もみんな熱心に作っていました。

講師の坂口さんは、科学読物研究会の会員で、「金属はもえる？」のほかにも実験のレパートリーがあるそうです。科学遊びの本もたくさん紹介していただきました。図書館にも多数そろえていますので、身近なハテナを実験してみませんか。（火には注意して行ってくださいね。）

『鉄だってもえちゃう』	佐藤　早苗／作	大日本図書
『もえる』	うごくかがく編集委員会／文	ほるぷ出版
『火と金属のひみつ』	大竹　三郎／著	国土社

編集後記

1999年、図書館は開館15周年を迎えます。

開館の年に生まれた赤ちゃんが、もう中学校を卒業する年齢になるのです。皆さんはこの15年間、約5500日で、どれだけの心に残る本と出会うことができたでしょうか。

まだまだたくさんの本があなたを待っています。

今年も図書館へどうぞ！

成田市立図書館だより
発行　成田市
編集　成田市立図書館
〒286-0017 成田市赤坂1-1-3
☎0476-27-4646
発行日　1999.1.20
登録番号　成教図522